

平成 30 年度第 1 回奈良県冬季誘客イベント「大立山まつり」実行委員会議事録（要旨）

日時：平成 30 年 7 月 9 日（月）16:00~17:00

場所：ホテル日航奈良「天空」の間

【平成 29 年度事業報告及び収支決算について】

第 1 号議案、第 2 号議案について、全員一致で承認

【会則の一部変更について】

実施体制の見直し、民間の企画立案を活かすために実行委員に石川委員、平井委員を加える旨を説明。

第 3 号議案について、全員一致で承認。

変更後の会則に基づいて、互選により石川重元委員が新会長に就任。

また、石川新会長より副会長 2 名を新たに指名。

植野委員、折原委員が会長の指名により副会長に就任。

石川会長より就任のあいさつ

海龍王寺が平城宮に近くにあることなどから、常々、大立山まつりや平城宮での行事について関心を持っており、大立山まつりは、もう少し歴史的なことや民間の考え方があれば広がる祭りになると考えていた。会長として、自分が持っている民間のノウハウやコネクションを注入していきたい。私は寺の住職ではあるが、昔からイベントに興味をもっており、平城遷都 1300 年などを通じて勉強をしてきた。大立山まつりは良くも悪くも県民から注目されている。批判されているうちはまだよく、何をやっても駄目だという雰囲気蔓延することを恐れている。大立山まつりは荒井知事が生み出し、県も多額のお金を負担して賑わいの創出を図っている中で、批判や批評だけではなく、民間の力を注入して、どうしたらよりよいものになるかを考えた上、更なる賑わいを創出していくことが県民の役目であると考え、リーダーとして全力を尽くして取り組みたく、皆様にも引き続きご協力いただきたい。

【平成 30 年度事業計画及び収支予算について】

第 4 号議案、第 5 号議案について、全員一致で承認

会長より補足説明

まだ、未定であるが、「古代と現代が交差する場所でピュアな奈良・プレミアムな奈良を体感していただく」ということをコンセプトとして、古代の物事を体感していただいたり、古代の物事を現代の技術で復元することによってこの場でしか体感できないことを体感していただける、大立山まつりにしたい。また、大立山まつりの行催事及び行催事のプロモーションについては、知名度アップよりも、魅力度アップを最重要課題にしたい。単に存在の意味を伝えるだけではなく、歴史や行事に対する我々の考え方を表現して、丁寧に説明に説明をする事で、奈良へのリピーターや新規客の創出を図りたい。

審議概要

中村委員)

大立山まつりは冬の奈良を代表する祭りとするために取り組んできた。ただ振り返ると、寒さやトイレの対策ができていない。場所が変わり、ある程度は解消されるものの、一方で今年度は予算が4000万円減らされている。奈良県を代表する冬のイベントとして予算が減少している中で、県民の声に応えられるのか。

事務局)

予算の大幅減については、既存施設の活用、コンパクトな開催など工夫によって十分まかなえるものと考えている。

また、民間が広報をおこなうことで新しい手法も入ってくると思うので、そういうものを最大限活かして限られた予算の中で行っていきたい。

中村委員)

3割以上の削減であり、イベントの充実までできるのか。予算を減らして、民間の叡智を結集したとしても、実現には費用が必要。具体的には何をコンパクトにするのか。コンパクトにしても、トイレや寒さ対策についてはお金をかける必要がある。大立山まつりは県民が期待している祭り。このあたりについては良く考えて欲しい。

事務局)

一体的に開催できる場所があるので工夫しながら考えたい。有料企画も考えている。いつまでも県負担金に依存せずに新たな財源も加えていきたい。

中川委員)

協賛企業の表記について、昨年度の会場で協賛企業名が古い社名で掲示されていた。重々注意いただきたい。また、駐車場について、近辺に公営駐車場がない。奈良市役所やミ・ナーラの駐車場を活用するなど重々検討いただきたい。

事務局)

これから検討していきたい。